

山梨県笛吹市

# 下黒駒1号墳

畠地帯総合整備事業黒駒西地区農道1号

整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016・3

山梨県峠東農務事務所

笛吹市教育委員会

# 序

本書は平成 26 年度に実施された下黒駒 1 号墳（笛吹市御坂町下黒駒）の発掘調査報告書です。

この古墳は墳丘マウンドや石室が残る古墳として地域の方々にも知られていました。幸い、工事が影響する範囲が石室に及ばないことが確認されたため、発掘調査による記録保存範囲は墳端から周溝にかけてのわずかな範囲となっています。報告書に記載された調査成果はやや寂しいものになっていますが、古墳本体をほぼ保存することが出来たことは大きな成果であったといえるでしょう。

笛吹市ではこれまで『甲斐国千年の都』として、岡・鎌子塚や竜塚などの前期古墳、姥塚などの後期古墳、甲斐の国府推定地として知られる春日居町国府や御坂町国衙、県下最古の寺院である寺本廃寺跡、甲斐国分寺跡や国分尼寺跡などの官営寺院などを広く紹介してきました。

一方で豊富な資料を有する縄文時代中期を中心とした遺跡に注目した歴史フォーラムの開催や冊子の刊行、ガイドマップ類の作成に力を入れてまいりました。本報告書の刊行により、古墳時代の資料を追加提示することが出来たことで、この取り組みがより厚みを増してきたのではないかと考えております。

発掘調査にあたり、ご理解、ご協力を賜りました山梨県東農務事務所、ご指導ご協力を賜りました山梨県教育委員会はじめ関係諸機関、発掘調査においてご不便をおかけいたしました地元地権者各位、隣接農地の耕作者各位、発掘調査に参加いただきました作業員各位に深く感謝申し上げ、この発掘調査報告書の刊行の序文に代えさせていただきます。

平成 28 年 3 月

笛吹市教育委員会  
教育長 坂本誠二郎

## 例　　言

- 1、本書は、山梨県笛吹市御坂町下黒駒地内に所在する下黒駒 1 号墳の発掘調査報告書である。
- 2、本調査は、山梨県東農務事務所による畠地帯総合整備事業黒駒西地区農道 1 号工事に伴うものであり、東建設事務所の委託を受けた笛吹市教育委員会が調査主体となり発掘調査・整理作業・報告書作成を行った。
- 3、発掘調査（現場作業）は平成 26 年 11 月 13 日から着手し、平成 26 年 11 月 20 日まで行った。
- 4、本報告書の編集及び執筆は、瀬田正明が行った。
- 5、本書に掲載した遺構写真は、望月和幸が撮影した。
- 6、発掘調査及び整理作業のうち一部の業務は、以下の機関に委託並びに協力を得た。  
空中写真・オルソ画像撮影 昭和測量株式会社  
遺構平面図作成 昭和測量株式会社
- 7、本報告書に係る出土品および記録図面・写真などは一括して笛吹市教育委員会に保管してある。
- 8、発掘調査・報告書作成に際し、下記の方々からご協力、ご教示を頂いた。記して感謝の意を表したい。

御坂町下黒駒区、地権者各位、隣接耕作者各位、山梨県東農務事務所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、公益財団法人山梨文化財研究所、谷口一夫（笛吹市文化財保護審議委員）、長沢宏昌（同）

（順不同・敬称略）

## 凡　　例

本書における遺構の表示は以下のとおりである。

- 1、遺跡全体における X・Y 座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系の座標値を示している。遺構断面図等脇の数値は、標高を示す。
- 2、本書で用いた地図は、国土地理院発行「石和」1/25,000（第 1 図）、御坂町発行「都市計画基本図 5・7」1/2,500（第 2 図）である。
- 3、第 1 図中に示した金川の旧流路は、下記の文献を参考にしたが一部改変してある。改変の理由については編著者の責に帰するが、稿を改めて検討したい。  
平野 修 2008 「墨書き器からみた古代甲斐國の八代郡と山梨郡の郡境について」『山梨県考古学協会誌』第 18 号
- 4、第 3 図の等高線の標高は任意で、20cm 単位に引いてある。

# 調査組織

## 調査事務局

坂本誠二郎（笛吹市教育委員会教育長）  
堀内 常雄（笛吹市教育委員会教育部長）平成 26 年度  
雨宮 寿男（笛吹市教育委員会教育部長）平成 27 年度  
猪股 喜彦（笛吹市教育委員会文化財課長）

## （発掘調査）平成 26 年度

発掘調査担当者 望月 和幸（笛吹市教育委員会文化財課）  
発掘調査補助者 山下 未央（笛吹市教育委員会文化財課）  
発掘調査作業員 大久保良信、中込 樹、萩原 森詞、馬渕 泰藏

## （整理作業）平成 27 年度

整理作業担当者 濑田 正明（笛吹市教育委員会文化財課）  
室内整理作業員 藤巻 淑子、角田 万紀

# 目 次

- 序
- 例言・凡例
- 調査組織
- 目 次
- 挿図目次
- 写真図版目次

第1章 調査経過 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 調査の経過 .....	1
第2章 遺跡の概要 .....	1
第1節 地理的・歴史的環境 .....	1
第3章 検出された遺構と遺物 .....	5
第1節 下黒駒1号墳 .....	5
第4章 結語 .....	8
引用・参考文献	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図 (S = 1/25,000) .....	2
第2図 調査地周辺図 (S = 1/2,500) .....	4
第3図 下黒駒1号墳 平面図 (S = 1/50) .....	6
第4図 下黒駒1号墳 墳丘セクション・立面図 (S = 1/50) .....	7

## 写真図版目次

図版1 下黒駒1号墳 オルソ画像	
図版2 1 調査地近景（南から）	
2 調査前全景（南西から）	
図版3 1 調査地全景（南から）	
2 調査状況	
3 表土・石垣除去後	
4 墳丘残存状況（南から）	
5 墳丘セクション（北から）	

# 第1章 調査経過

## 第1節 調査に至る経緯

下黒駒1号墳は、笛吹市御坂町下黒駒地内に位置する古墳時代後期の横穴式石室を持つ円墳である。T字型石室で知られる長田20号墳を含む長田古墳群と、蝙蝠塚古墳を含む下野原古墳群に挟まれた古墳群の一角を構成する古墳であり、現在もマウンド及び石室が残る。

当該古墳墳丘を掠めるように、山梨県嶽東農務事務所による畠地帯総合整備事業黒駒西地区農道1号工事が計画され、文化財保護法94条に基づく通知が嶽東農務事務所長より笛吹市教育委員会経由で山梨県教育委員会に提出された。これに基づき笛吹市教育委員会は工事に先立ち、現地踏査を行ない、工事範囲に当該古墳の西側墳端及び周溝部が含まれることを確認した。

嶽東農務事務所と笛吹市教育委員会は、当該農道工事計画地における埋蔵文化財の取り扱いに関する協議を進め、嶽東農務事務所が費用負担し、笛吹市教育委員会が工事範囲における埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を行うことで合意し、協定書を締結した。

以上を踏まえて、平成26年11月13日より、現地における発掘調査を開始した。

なお、本古墳は笛吹市遺跡台帳において御坂-73「無名墳」として周知されていたが、今回の調査を機に大字の名称にちなんで「下黒駒1号墳」と改称した。

文化財保護法94条に関する埋蔵文化財発掘の通知	平成26年8月12日
周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)	平成26年8月25日
文化財保護法99条における着手報告	平成26年11月14日
文化財保護法100条第2項、遺失物法による埋蔵物発見届	平成26年11月28日

## 第2節 調査経過

発掘調査は、平成26年11月13日に着手した。対象地は近現代の石垣で覆われていたため、新しい石垣を人力で除去して残存している墳丘・周溝の有無を確認した。その結果、石垣の根石などによって大半の部分が攪乱されていたため周溝の有無は判然としなかったが、一部で墳丘を検出した。

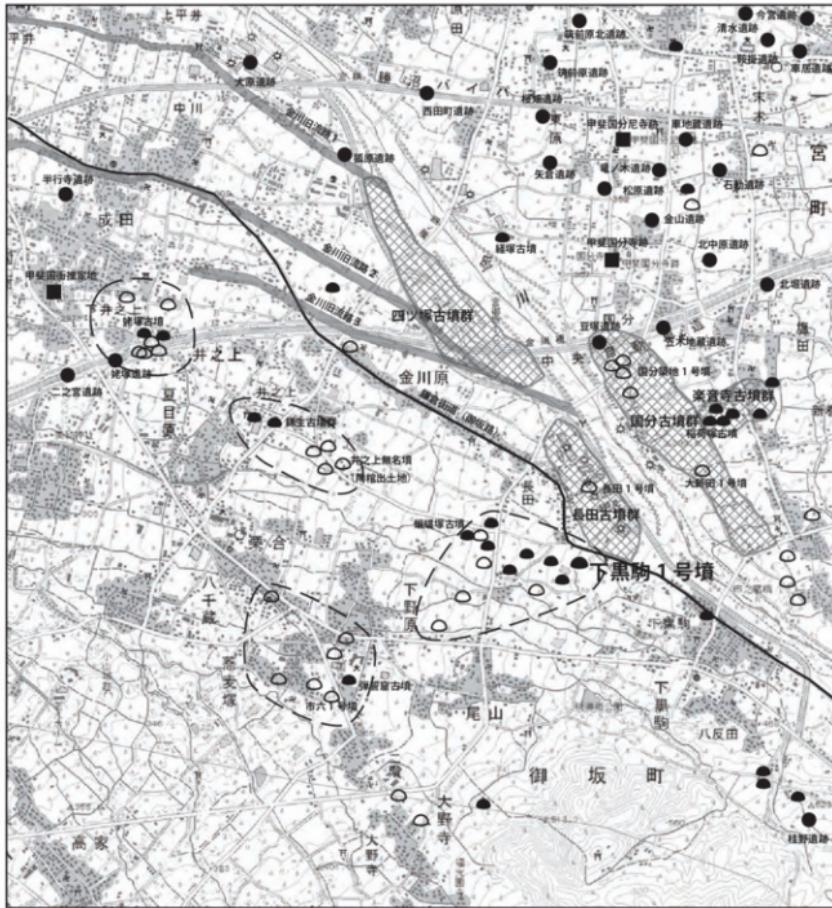
11月17日より調査区のセクション、平面図を作成すると共に、当該古墳の石室側壁と思われる石積みから続く石垣の立面図を作成した。11月20日にラジコンヘリによる全景写真・オルソ画像の撮影を行った後、墳丘の断ち割り、セクションの実測を行って、現場での作業を終了した。なお、調査終了後直ちに工事着工となるため、現地の埋め戻しは行っていない。

整理作業については、平成27年度に実施し、報告書を作成した。

# 第2章 遺跡の概要

## 第1節 地理的・歴史的環境(第1・2図)

山梨県笛吹市は、甲府盆地東側に位置する。市名の由来となった笛吹川は、秩父山地に源流を持ち市域を北東から南西に向かって流れている。市域の多くは笛吹川と、甲府盆地南縁を形作る御坂山地から流れ出るいくつかの河川によって形成された複合扇状地上に立地する。御坂山地の八町峠付近を源流とする金川によって形成された金川扇状地はこの複合扇状地の中でも最大で、面積は約18km<sup>2</sup>ある。金川扇状地は中央部を金川が南東から北西方向に流れ、東側は田垂川・大石川・御手洗川を境に大石川扇状地・京戸川扇状地



第1図 遺跡位置図 (S=1/25,000)

と接し、西側は天川を境に浅川扇状地と接する扇形に広がっている。金川の左岸が笛吹市合併以前の旧御坂町域、右岸が旧一宮町域であるが、左岸側の一部にも旧一宮町域があり、これは金川の流路変更の影響によるものと思われる。

下黒駒1号墳の所在する御坂町下黒駒地区は、金川左岸の扇央部に位置し標高は405mである。

笛吹市内には多くの遺跡が周知されており、甲府盆地内においても遺跡の分布が濃密な地域である。

縄文時代の遺跡の多くは丘陵上に立地しており、金川周辺では扇頂部より上流の桂野遺跡・中丸遺跡などで大規模な集落の存在が知られている。また、北堀遺跡や清水遺跡、金田遺跡などでも縄文時代の遺構・遺物が確認されている。

弥生時代の遺跡は多くが金川扇状地や京戸川扇状地の扇端部付近に見られる。本遺跡の周辺では二之宮遺跡や筑前原遺跡、鞍掛遺跡などで弥生時代後期の住居跡が散見される。

古墳時代になると扇央部に多くの集落遺跡が見られ、古墳も築造されるようになる。御坂町成田地内の亀甲塚古墳は、東西25m、南北20.8mの不正規円形を呈し、主体部は安山岩の割石を利用した竪穴式石室で、両頭式盤龍鏡や碧玉製菅笠などが出土し、5世紀前半の築造と位置付けられている。

笛吹市遺跡台帳の旧御坂町域では、消滅してしまったものも含めて46件の古墳（古墳群）が登録されている。このうち竪穴系の埋葬施設を持つものは亀甲塚古墳だけで、残りは横穴式石室を持つ後期古墳であると考えられている。この地域の後期古墳の中で特筆すべきものは、姥塚古墳である。姥塚古墳は、直径約40mで全長17.54mの巨大な横穴式石室を持ち、石室形態から6世紀後半の築造と考えられている。この横穴式石室の規模は東日本の中でも最大級であり、この地域において突出した存在となっている。

金川沿岸には多くの古墳が見られ、群集墳を成している。金川左岸には四ツ塚古墳群と長田古墳群、金川右岸には国分古墳群、楽音寺古墳群があり、甲府盆地において後期古墳が最も集中している地域である。

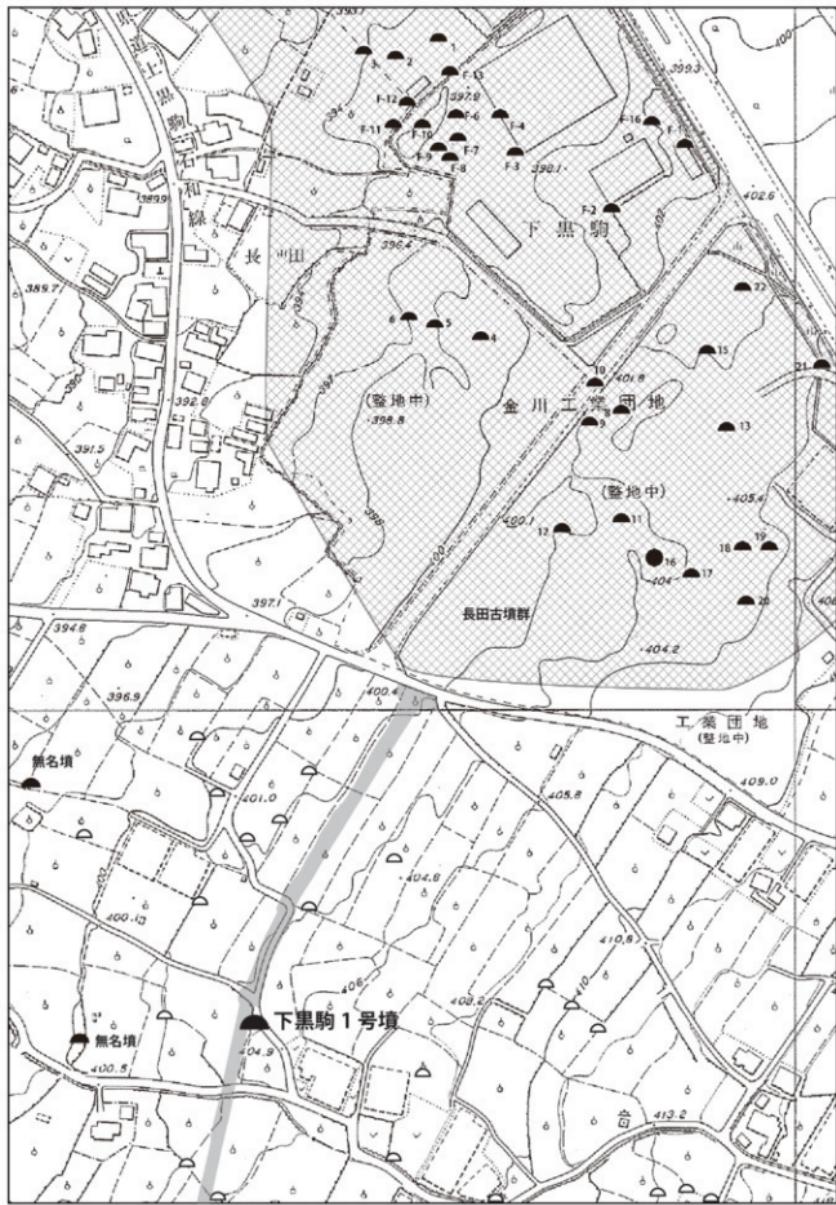
四ツ塚古墳群は、昭和56年に中央自動車道建設に先立って21基、平成7年に「森林公園金川の森」建設に先立って5基の後期古墳が発掘調査されたほか、「金川の森」の敷地内に30基を超える古墳の痕跡が残されている。いずれも円墳で、規模は直径15~16m程度を最大として、最小は6m、12m程度が主体をしめる。主体部は竪穴系横穴式石室1基を除き、他はすべて横穴式石室である。6世紀後半から造墓が始まり、7世紀後半まで古墳が造られ、8世紀初頭前後まで追葬が行われたと見られている。

長田古墳群は、金川工業団地の建設に伴って平成元年から35基の古墳が調査されている。このうち造成対象から外れ現地に残されていた長田1号墳は、駐車場の拡張によって取り壊されることになり、平成23年に再調査を実施した。長田古墳群は、直径25m程度の1号墳と20号墳を最大に、最小は5m程度の円墳からなる。主体部はすべて横穴式石室であるが、半地下式のF-1号墳、T字形の平面形を持つ20号墳など特徴的な形態を持つものも含まれる。長田古墳群は出土遺物から6世紀後葉から7世紀中葉を中心とした時期に造営されたものと考えられており、四ツ塚古墳群よりやや早い段階に造墓が開始されたと見られている。

なお、四ツ塚古墳群は旧一宮町内、長田古墳群は旧御坂町内に所在し、両者の間には中世以前の金川の旧流路があると指摘されている。

金川の右岸を見ると、一宮町国分・塩田・市之藏地内の金川沿岸約1.3kmの範囲に110基ほどの古墳が広がる国分古墳群がある。この古墳群は、墳丘及び主体部の上部が破壊されている例がほとんどであり、規模などが判明するものはあまりない。これまでに8基ほどの古墳が調査されているが、すべて横穴式石室を持つ円墳であり、規模は直径20m未満に収まる。古墳群の築造開始は7世紀初め頃であり、長田古墳群や四ツ塚古墳群よりやや遅れている。

国分古墳群の東側にはやや規模の大きい古墳が集まっている、楽音寺古墳群とされている。推古天皇2年(594)創建の伝承を持つ医王山楽音寺の境内にある狐塚古墳・蝙蝠塚古墳・八幡塚古墳を中心に、西側の稲荷塚古墳の4基からなるが、県道をはさんで東側の大神塚古墳も含めることができる。5基とも墳丘・石室が良好に残っており、直径20m程度の円墳である。稲荷塚古墳からは人物埴輪や鞍輪などの破片が採集されており、金川周辺の古墳の中で唯一埴輪を樹立する古墳であり、7世紀前半の築造と考えられてい



第2図 調査地周辺図 ( $S=1/2,500$ ) ※△は分間図から推定した古墳

る。

国分古墳群の下流約 700 mには単独で経塚古墳がある。経塚古墳は、直径約 12.5 m の八角形墳で全長 6.6 m の横穴式石室を持ち、7 世紀前半に建造されたものと考えられている。

こうした古墳が建造された古墳時代後期の集落は、二之宮・姥塚遺跡や大原遺跡、鞍掛遺跡で大規模な集落が確認されている。

奈良時代になると、一宮町国分に甲斐国分寺、同東原に甲斐国分尼寺が造営される。これらの造営が開始されると周辺には松原遺跡をはじめ車地蔵遺跡、金山遺跡、北中原遺跡、桜畠遺跡などの新しい集落が生まれる。これらは甲斐国分寺の造営に関わった、国分寺関連遺跡群として捉えることができる。また、御坂町国衙は国府・国衙の遺跡と考えられ、甲斐国府の存在が推定されている。このように奈良時代以降、金川周辺は古代甲斐国の政治・文化の中心となっており、その兆しは古墳時代後期の古墳・集落に求められる。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 下黒駒1号墳（第3・4図）

**位置と周辺の状況** 下黒駒1号墳は、下黒駒字南長田 1139-2 に所在する。この区画は南北約 5 m、東西約 7 m の略長方形を呈し、地目は原野であった。周辺では西側 100 m に古墳の残骸が残るが、明治の分間図を見ると小さな区画の原野が多数あり、既に消滅した古墳がいくつもあるものと思われる。分間図から推定した古墳を第2図に示しておいた。

**残存状況** 古墳の残存している土地の地境は、北東の一部が道路に接しているが、残りは近隣の畑に接している。現状は高さ 1.8 m ほどのマウンドであり、西側から南側西半分にかけて石垣が作られているがそのほかの部分はなだらかなスロープで隣接地に続いている。南側石垣の東端は幅 90cm、厚さ 30cm ほどの石が重箱状に積まれておらず、横穴式石室の側壁と考えられる。マウンド上や東裾部分には石室石材と思われる石が散乱しているが、原位置にあるとは考えられなかった。

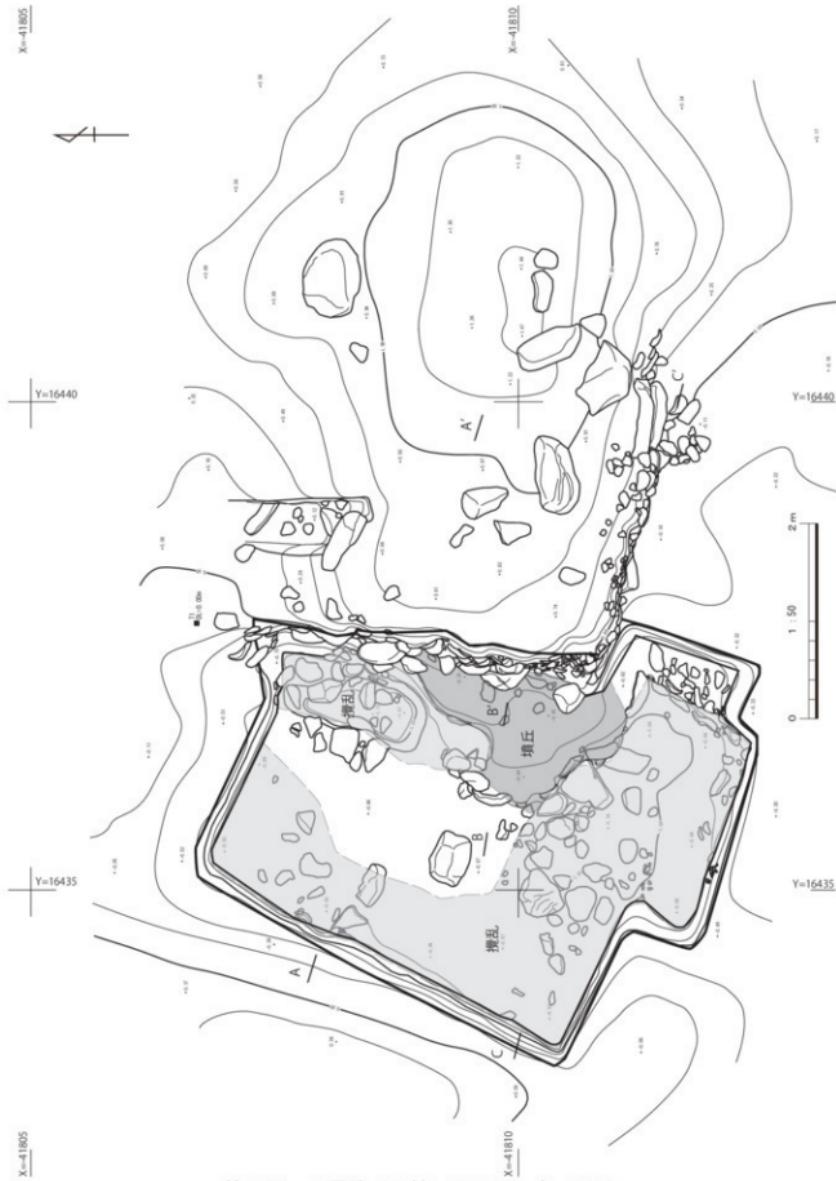
**調査の方法** 今回の調査は農道の建設に当たり、当該地の西辺が 1 m ほど削られるため、その部分の記録保存を目的に実施した。対象となるのは西側の石垣部分であるため、最初に近現代の石垣を除去した後、下層に墳丘・周溝が残存しているか確認した。記録の作成に当たっては、古墳の現状も記録するため、調査範囲と共に墳丘部まで含めてオルソ画像を撮影し、等高線の入った平面図を作成した。同様に石室の現状を記録するため、南側石垣から石室側壁までの立面図を作成した。

**周溝・墳丘** 西側石垣の除去後、4.5 × 4.5 m の範囲で掘削を行い周溝・墳丘の残存状況の調査を行った。その結果、石垣周辺では根石などにより大きく攪乱され、調査範囲内では周溝を確認することはできなかった。墳丘は、対象地の南西コーナー部分で石垣の内部に盛り土の一部が残存していた。残存範囲は南北 2.3 m、東西 1.5 m ほどで、厚さは最大で 40cm ある。墳丘は黒褐色土と黄色土の版築によって構築されている。外護列石も確認できなかったため、墳端がどの部分になるかは分からぬ。

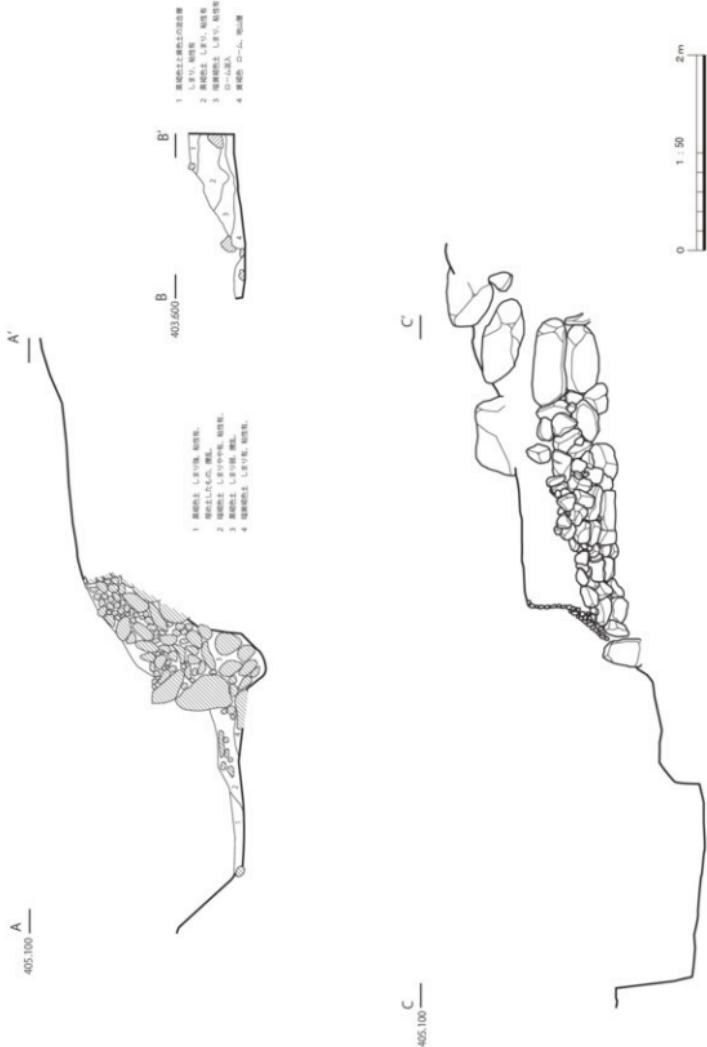
**石室** 石室は、奥壁部分が既存道路によって破壊され、入口側も削平されていると見られる。先述したように、南側石垣の東端部で 2 段に積まれた石室側壁が露出しており、墳丘全体から見れば南北軸より西側に位置していることから、南側に開口する横穴式石室の左側壁と考えられる。石が主軸に直交して積まれているならば、開口部からみて主軸をやや東に振っていることになる。墳丘の状態から見ると、3 ~ 4 m 程度の石室が残存しているものと思われる。

**墳丘の復元** 下黒駒1号墳は区画の中全体に広がっているため、現状では石室主軸方向で 5 m ほど、直交軸方向で 7 m ほど、高さ 1.8 m ほどを測るが、本来の墳丘規模は不明である。確認された墳丘も攪乱が著しく墳端が不明であるが、左側壁石材の内側から墳端まで約 4.5 m があるので、最低でも直径 10 m 程度の墳丘が復元できる。この規模は、四ツ塚 2・11 号墳など相当し、四ツ塚古墳群でもやや小規模な部類に入る。

**出土遺物** 石垣の裏込めから須恵器甕の小破片が数点出土しているが、図示するには至らなかった。



第3図 下黒駒1号墳 平面図 (S=1/50)



第4図 下黒駒1号墳 墳丘セクション・立面図 (S=1/50)

## 第4章 結語

長田古墳群を除く旧御坂町域の古墳は「錦生古墳群」や「下野原古墳群」として紹介されることが多いが、その範囲は研究者によってまちまちである。そこで改めてこの地域の古墳の分布をグルーピングすることで下黒駒1号墳の位置づけを考えてみたい。

### ①姥塚古墳を中心としたグループ

直径約40mを誇る姥塚古墳は、この地域において突出した存在であるが、周辺でも既に消滅しているものも含めて3基の古墳が知られている。また、姥塚古墳に隣接する姥塚遺跡でも古墳4基、周溝墓4基が調査されている。古墳のうち2基は横穴式石室を持つ後期古墳であるが、石室の痕跡を残さない1基は5世紀代にさかのぼる低墳丘古墳であり、古墳群の形成が5世紀段階までさかのぼる可能性がある。

### ②錦生古墳群

姥塚古墳から70m南西にある夏目原八幡神社付近から井之上無名墳までの一帯で、6基以上の古墳が知られている。狭義にはこのグループの一部が錦生古墳群として遺跡台帳に登録されている。このグループでは発掘調査は行われていないが、井之上無名墳から陶棺が出土している。

### ③下野原古墳群

第2グループからさらに80mほど南西にあり、蝙蝠塚古墳から下黒駒1号墳までの範囲に広がり、12基程度の古墳が知られている。「下野原古墳群」として紹介されることがある。蝙蝠塚古墳は、直径15m程度の円墳で、両袖式の横穴式石室を持ち、6世紀後半ごろの築造と考えられている。

### ④弾誓窟古墳を中心としたグループ

下野原地内の弾誓窟古墳を中心としたグループである。7基程度の古墳が知られているが弾誓窟古墳以外は既に消滅している。「下野原古墳群」として第3グループと一緒に紹介されることがあるが、出黒川を挟んで明らかに別グループであると見られる。弾誓窟古墳は、直径16mの円墳で全長7.61mの無袖式の横穴式石室を持ち、6世紀前半ごろに位置付けられている。市六1号墳からは埋もれ木で作られた棗玉などが出土している。

以上4つのグループ以外に金川原古墳群や大野寺地区、上黒駒八反田地区に数基の古墳がまとまっているが、近世の富士塚が含まれていたり、詳細が不明なので今回のグループ化からは省いた。

下黒駒1号墳は第3グループ(下野原古墳群)に位置付けられる。このグループは長田古墳群とも隣接し、双方の被葬者にどのような違いがあるのか今後の検討が望まれる。

今回の調査は極めて狭い範囲の調査であったが、御坂地域の古墳群について再検討する良いきっかけとなった。発掘調査ならびに報告書作成に当たって、関係各位及び関係諸機関より多大なるご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

御坂町 1971 『御坂町誌』

山梨県教育委員会 1985 『四ツ塚古墳群』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第11集

山梨県教育委員会 1995 『県指定史跡 経塚古墳』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第109集

山梨県 1998 『山梨県史』資料編1 原始・古代1 山梨県

山梨県教育委員会 1999 『南西田遺跡・西林遺跡・四ツ塚古墳群』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第162集

御坂町教育委員会 2004 『長田古墳群』御坂町教育委員会埋蔵文化財概要報告書 h16-2

公益財団法人山梨文化財研究所他 2014 『長田1号墳』笛吹市文化財調査報告書 第30集



下黒駒 1号墳 オルソ画像（縮尺・方位は任意）

図版 2



1 調査地近景（南から）



2 調査前の状況（南西から）



1 調査地全景（南から）



2 調査状況



3 表土・石垣除去後



4 塗丘残存状況（南から）



5 塗丘セクション（北から）

# 報告書抄録

ふりがな	しもくろこま1ごうふん
書名	下黒駒1号墳
副書名	畠地帯総合整備事業黒駒西地区農道1号整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ	笛吹市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第35集
編著者名	瀬田正明
編集機関	笛吹市教育委員会（山梨県笛吹市石和町市部809番地1）
刊行機関	笛吹市教育委員会（山梨県笛吹市石和町市部809番地1）
発行年月日	平成28年（2016）3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しもくろこま1ごうふん 下黒駒1号墳	やまなしけんふえふきし 山梨県笛吹市  みさかちょうしもくろこま 御坂町下黒駒		19211 御坂-73	35° 37' 24"	138° 40' 41"	2014. 11.13 ～ 2014. 11.20	20m <sup>2</sup>	農道整備
種別		主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
古墳		古墳時代		古墳1		須恵器小片		墳丘の一部 のみの調査

## 笛吹市文化財調査報告書第35集

### 下黒駒1号墳

畠地帯総合整備事業黒駒西地区農道1号整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成28年（2016）3月24日 印刷

平成28年（2016）3月25日 発行

編集・発行

〒406-0031

山梨県笛吹市石和町市部809-1

笛吹市教育委員会

印 刷

相互印刷株式会社

The Report of  
Archaeological Research of  
SHIMOKUROKOMA No,1 Tumulus in Misaka

Archeological Survey prior to construction of the  
Farm Road No,1 on the West Kurokoma Area

March,2016

Agricultural Department,Yamanashi Prefectural  
Development Office of Kyoutou Area  
Fuefuki City Board of Education